

新型コロナウイルス感染症

山県市教育委員会 教育委員 川田八重子

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年3月2日から、5月31日までの3か月間にわたり、小中学校が臨時休業となりました。

その間、校長先生をはじめ、先生方は、プリントの配布をされたり、各小中学校のホームページに授業の動画を貼り付けたり、ケーブルテレビによる映像での学習支援をされたり、インターネット環境の無い児童生徒には、DVDの配布など、きめ細やかな御配慮を賜り心から感謝しています。

令和2年6月1日から、分散登校を経て学校再開後は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を万全にして、授業の遅れを取り戻すため、中学生と小学校高学年は7時間授業を、小学校低学年は6時間授業をして、無事、令和2年度を乗り越えられました。

令和2年度3学期から市内小中学校に導入されたタブレット端末について、先生方の御指導により、各教科の授業に有効活用され、大変感謝しています。

私の孫が通学している富岡小学校でも、令和3年9月には2回、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策とタブレット端末の効果的な活用を見据えて、オンライン授業が下校後実施されました。この体験により、当時6年生と2年生の孫も、オンライン授業の自信がついたように感じました。

令和4年1月中旬から始まった新型コロナウイルス感染症第6波では、市内各小中学校でも、コロナ陽性者が、多数判明し、学級閉鎖により自宅待機が多数発生しました。私の小学校2年生の孫も学級閉鎖により自宅待機となり、担任の先生も自宅待機のため自宅から、タブレット端末によりオンライン授業をしていただけました。朝の会、1時間目算数、2時間目音楽、帰りの会の授業でした。とても素晴らしい授業で、先生の温かい心遣いが伝わってくる授業でした。音楽の授業は、鍵盤ハーモニカの授業でした。宿題は、「こぎつね」を鍵盤ハーモニカで演奏して動画を先生に送信することでした。私が、タブレット端末で孫が演奏する鍵盤ハーモニカの真上から動画を撮影し、孫が学習支援アプリで担任の先生に送信しました。日頃の先生の素晴らしい御指導のお陰ととても感動しました。

また、中学校では、コロナ禍で欠席している生徒がいる場合は、学校の授業をオンラインで生徒のタブレット端末に、ライブ配信していただいていたと聞きました。先生方の心温まる御配慮に心から感謝しています。

令和5年1月27日政府により、感染症法上の位置付けが、令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同じ「5類」に移行すると決定されました。令和5年2月下旬になると、新型コロナウイルス感染症の感染者も徐々に減少し、マスク着用の新たな政府指針が政府対策本部で決められました。

徐々にWithコロナの体制となりつつあり、感染拡大防止対策を実施しての各学校の例年の行事も実施されるようになり、とてもうれしく感じている今日この頃です。

私は、山県市教育委員会教育委員を拝命し、早9年が経とうとしています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大した状況下で校長先生はじめ先生方の迅速かつ適切な初動体制で児童生徒たちを守り指導していただいた3年間が一番印象深く、心から感謝しています。ICT教育が急速に進展し、充実した状況を見ることができて、とても感動しました。

福沢諭吉になったつもりで考えてみました

七宗町教育委員会 教育委員 堀部勝広

来年度に紙幣のデザインが刷新されることを機に、財布の中から一万円札を取り出したら、福沢諭吉は、今の日本をどうみるのだろうと他愛もない疑問が頭に浮かんできたので、ここに呟いてみることにします。

福沢諭吉は、著書「学問のすすめ」のなかで「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと伝えり」と著し、生まれながらにして人は皆平等であるが、その後現実社会で主従の関係や貧富の差が生じるのは、学びの差によるものとし学問の大切さを説きました。

また、慶應義塾大学の基本理念でもある「独立自尊」を唱え、一人一人が自身で考え行動し自立することなしに、国家としての真の独立はないとしました。

そのことをふまえ、今の日本はどうなのか考えてみました。

国家の力を見る指標 GDP は今現在世界第3位ですが、一人当たり GDP は27位です。労働者の平均収入をみてみると世界第22位、管理職の平均収入は、なんと44位です。これは、1人の労働者が支えている人口の割合が他国より多く、金銭面で自立出来ていない人の多さが表れています。これでは、出世を望まない若者が増えるのもわかります。また、農家の友人が「今までベトナム人研修生に労働を頼ってきたが、最近はベトナムで募集しても、給料が安く、待遇の悪い日本には研修生が来なくなってしまった」と嘆き、コロナの対策の際、医療先進国だと思っていた日本が、自国でコロナのワクチンをメッセンジャーRNAから開発出来ず、また生産もできないという現実に驚かされました。これは、有能な研究者や研究材料が海外へ流出してしまっていることを意味し問題だと感じました。

では、こうした問題を解決するためには、一体どうしたらいいのだろうか考えてみました。

福沢諭吉が、個人の自立を推し進めるために、慶應義塾を設立し学びの場を提供したのとは逆に、今だと彼は、大学の数と定員を減らすことに着手すると思います。大学が多過ぎることによって、多くの人々の自立の機会が損なわれ、選択の幅を狭めています。多様化した時代、様々なキャリアから社会に出ていけるチャンスがあり、過度にならない程度の支援策をこうすることで、自立の成功例が増え、それによって社会が好循環になると考えると思います。また、自立の成功例を多く作ることが重要なのは、定年を過ぎた世代も同様です。この世代には今までの経験に、新たな学びを加味させることで自立を促すと思います。そうすることで、今より多くの自立した人が活躍できる社会を目指し、活力のある日本を取り戻そうと考えたいと思います。

そして、一万円札の肖像が変わろうとしている今、自立した人々が、渋沢栄一が行なった公共の利益を優先する日本式の資本主義を展開することを願ってバトンを譲る事だろうと思います。